



## 入出国ポイントで初の輸入性コレラ患者 東方航空に口頭による嚴重注意

新浪上海 sh.sina.com.cn 2016-06-23 19:18 上海电视台

05月30日、ニューデリー（インド）から東方航空公司 MU564 便で浦東空港 T1 ターミナル 204 スポットに沖止めされた。このエアバス A330 型には 210 名の旅客と 18 名の搭乗員が搭乗していた。このフライトは、電子検疫情報機能を持っており、更に、航空会社は、遠隔通信の形で検疫検疫機構に対し規定の内容を報告することになっているが、感染者がいなく、且つ、検疫検疫の要求に符合している場合には、検疫のための職員の乗り込み検査検疫を経ずに人員が乗り降りできるようになっている。MU564 便到着前に、東方航空公司は上海空港検疫検疫局に異常の有無、体調不良者の有無についての報告を報告していなかった。飛行機がスポットに到着後、全ての旅客と乗務員は降機を許され、ランプバスに乗り T1 ターミナルまで移動した。

当日 13 時ごろ、航空会社に勤務する地上勤務員が、外国人旅客 1 名が国際線到着側のトイレの入り口にいるのを発見。この従業員は、直ちに状況を空港のオペレーションセンターに通報した。空港のウェディングロビー内の旅客で原因不明の体調不良者を見つけた場合の関連処置プランをもとに、空港オペレーションセンターは、直ちに検疫検疫部門に電話による報告を入れた。

疫学調査や医学検査から、現場は、消化器感染症の可能性を排除できなかった。患者の同意をとり、この旅客の糞便サンプルは採取できなかったが、肛門スワブと嘔吐物が採取され、すぐに衛生検疫センターの実験室に検査にまわされた。

検疫部門が現場に入り入国手続きをした後、検疫スタッフは、上海検疫検疫局及び上海市衛生計生委の聯合予防管理協力メカニズムに基づき、治療のために患者を 120（中国における救急車を呼ぶ番号）で定点医院に転送した。現場では、当該フライトに終末消毒を施し、同時に、国際線到着ロビー内で旅客が触れたような場所と物品に対して消毒処理をとり、当該旅客をターミナルビルまで運んだランプバスや椅子などの交通手段にも消毒を行った。フォローアップ調査により、当該旅客が当日医院に運ばれて後、病院での臨床症状から、急性胃腸炎と診断。旅客が元々の計画通りにトランジットでの旅行継続を強く要望したため、脱水状況が改善後退院し、航空会社が当日夜の MU737 を手配し、メルボルンに向け出発した。

06月03日、上海衛生検疫センターがサンプルを実験室で増菌分離培養したのち、血清凝集と核酸の再試験などの実験を行った結果、コレラ菌 O139 と大腸桿菌 O157 が陽性となった；獲得したコレラ菌を分離獲得した後、中国疾病予防管理センター伝染病予防管理所と協力し、ハイスループット遺伝子シーケンシング技術によって、06月13日にコレラ菌の遺伝子配列を獲得した。遺伝子測定結果の初歩的分析に基づき、このビブリオゲノムが、全長 4.42m（メートル？）あることや、ビブリオ菌の病原性島 1（VPI-1, Vibrio Pathogenicity Island1）やコレラ菌の ctx φ プロフェージ及びコレラ菌の整合エレメント SXT 部分の構造を検出した。『コレラ診断基準（WS-289-2008）に基づき、この入国地点における輸入性コレラ患者と確認し、この結果を WHO にも通知した。質検総局は、既に 06月04日に警報を発信しており、入国ポイントにおいて、インドからの入国者とその機材を対象とした検査と衛生上の処理を強化するように要求している。上海局は、今回のインドなどのコレラの流行に合わせて、交通手段の検疫モデルを結合させ、インドからの直行便については、暫時電子検疫制度を呈しし、交通手段に乗り込んでの検疫をすることとした。

現在、コレラ菌のディープ・シーケンシングが進められているが、このコレラ菌は、間違いなしに国内の流行株ではなく、国内初の輸入性のものである、これがどのような血清型のコレラ菌であるかについては、ディープ・シーケンシング終了後の全面的な分析を待たねばならない。

コレラは、国際検疫伝染病であり、コレラ菌に汚染された食物や水に急性消化器感染症の一種。これらは、世界的な脅威の一つであり、社会発展の主要指標の一つでもある。発展途上中にある国家は、全てコレラのアウトブレイク或はこれら流行の脅威にさらされている。これらの潜伏期間は短く、腸毒素（エンテロトキシン）を産出し、痛みを伴わない大量の水様性下痢の症状から、速やかに治療を行わぬ場合には、重度な脱水症を引き起こし死に至る。大多数の患者には嘔吐もまた見られる。コレラを実際に発症した

場合、約 80~90%には軽度或いは中度の発作が見られ、臨床上ではその他のタイプの急性下痢との区別をするのは大変難しい。約 20%の患者が典型的なコレラに罹っているが、中度或は重度の脱水症状を伴う。

<http://sh.sina.com.cn/news/k/2016-06-23/detail-iftmweh2406224.shtml>

..... 以下は中国語原文 .....

## 我国口岸发现首例输入性霍乱病例 东航被约谈

新浪上海 sh.sina.com.cn 2016-06-23 19:18 上海电视台

5月30日，来自印度新德里的东航MU564航班抵达浦东机场T1航站楼，停靠204远机位。这架空客330飞机共载有210名旅客和18名机组成员。该航班属于电讯检疫航班，也就是航空公司以电讯方式向检验检疫机构报告规定的内容，在没有感染疫情并且符合检验检疫要求的情况下，不经登机检疫就可以上下人员。MU564航班到港前，东航未向上海机场检验检疫局申报有旅客或机组出现不适或其他异常情况。飞机停靠后，所有旅客和机组予以正常下机，并由摆渡车摆渡至T1航站楼。

当天13时左右，航空公司地勤人员发现一名外籍旅客躺在国际到达卫生间门口。该工作人员立即将情况通报机场运控中心。根据候机楼内旅客出现不明原因不适的相关处置预案，机场运控中心随即电话报告检验检疫部门。

结合流行病学调查、医学检查，经现场判断，不能排除消化道传播传染病可能。在征得病人同意后，对该旅客进行了肛拭子和呕吐物采集，由于未采集到粪便样本，及时送卫生检疫中心实验室检测。

在边检到现场办理入境手续后，检疫人员根据上海检验检疫局与上海市卫生计生委的联防联控合作机制，将病例交由120救护车转送定点医院救治。现场对该航班进行终末消毒，并对国际到达大厅内该旅客所触及过的场所和物品进行了消毒处理，对转运该旅客的摆渡车、轮椅等交通工具进行消毒处理。后续追踪发现，该旅客当天送医后，医院接诊后临床判断为急性肠胃炎，予补液治疗。因旅客本人强烈要求按原计划转机继续旅行，在脱水情况改善后离院，由航空公司当晚安排乘MU737前往澳大利亚墨尔本。

6月3日，上海局卫生检疫中心对样本经实验室增菌分离培养后，进行血清凝集和核酸复核检测等实验，结果显示霍乱弧菌0139和大肠杆菌0157均为阳性；分离获得霍乱弧菌后，即与中国疾病预防控制中心传染病预防控制所合作，采用高通量基因测序技术，于6月13日获得霍乱弧菌全基因组序列。据测序结果初步分析，这一弧菌基因组全长4.42M，能够检测到弧菌毒力岛1(VPI-1, Vibrio pathogenicity island1)、霍乱弧菌ctxphi前噬菌体以及霍乱弧菌整合元件SXT的部分结构，按《霍乱诊断标准(WS289-2008)》，确诊为口岸输入性霍乱病例，并将结果通报卫生计生部门。质检总局已于6月4日发布警示通报，要求有关口岸加强来自印度的人员和交通工具等检疫对象的口岸查验和卫生处理。上海局结合近期印度等地的霍乱疫情，调整交通工具检疫模式，对来自印度的直航交通工具暂停电讯检疫，实施登交通工具检疫。

目前，该霍乱弧菌深度测序仍在进行中，可以肯定的是，此霍乱弧菌非国内流行株，是国内首次输入性菌株，至于何种新的血清型霍乱弧菌，还要等到深度测序完成后全面分析。

霍乱，国际检疫传染病，是由摄入受霍乱弧菌污染的食物或水引起的一种急性肠道感染。霍乱仍然是一个全球性威胁，并且是社会发展的主要指标之一。几乎每一个发展中国家都面临霍乱暴发或霍乱流行的威胁。霍乱的潜伏期短，并产生肠毒素，造成大量无痛水泻，如不及时给以治疗，可迅速导致严重脱水和死亡。大多数患者还出现呕吐。霍乱实际发病时，约80-90%的发作作为轻度或中度症状，并且在临床上与其它类型的急性腹泻很难区别。近20%的患者罹患典型霍乱，伴有中度或重度脱水的体征。

20160623A 入出国ポイントで初の輸入性コレラ患者 東方航空に口頭による嚴重注意(新浪上海)